

お母さんになられたあなたへ…

～妊娠中のお口の中の変化～

妊娠時期は、つわりなどでお口の中のケアが不十分になり、生活・食習慣の変化、さらに女性ホルモンは妊娠していない時に比べ増加します。その影響で女性ホルモンを栄養源にできる歯周病菌が増えて、歯と歯ぐきの境目にある溝で増殖し、歯ぐきの腫れや出血を起こします。出血が起こると血液成分を栄養源とする歯周病菌がさらに増加してしまいます。また、妊娠中は唾液の分泌量が低下と言われています。唾液の分泌量が低下すると、消化を助ける作用、抗菌・殺菌作用、免疫の低下など、虫歯や歯周病の原因菌が増える環境になります。

何か食べた後は必ず『歯を磨く』習慣を守って頂く事が大切です。しかし、気分が悪く歯ブラシが使えない場合は、食後はしっかりお口の中をゆすぎましょう。

つわりの時のお口の中のケアのポイント

- ・小さめの歯ブラシで磨く
- ・ストロークを小さめに磨く
- ・ブクブクうがいを十分にする
- ・お風呂につかっている時やテレビを見ながらなどリラックスしている時に磨く
- ・お気に入りの歯磨き粉や洗口剤を利用する
- ・体調が良い・磨ける時にしっかり磨く

<歯周病と早産による低体重児出産>

子宮などで感染症によって炎症が起こると、身体が様々な炎症物質を作り出します。この炎症物質の中には子宮を収縮させて出産を促す物質も含まれている為、早産を引き起こす事があるのです。近年では歯周病にかかった母親は早産や低体重児を産むリスクが高い事が報告されています。これは歯周病にかかった歯周組織（歯を支える周囲組織の総称）が作り出す炎症物質が血液中に入り込み子宮の収縮に関係していると考えられています。また、歯周病菌の毒素が歯周ポケットから血液中に入り込む事で、血液の炎症物質を増やす事も関係していると考えられています。



サンスターデンタルインフォメーションより

<妊婦歯科健康診査実施>

当医院では広島市が実施している妊婦歯科検診を実施しております。産まれてくる赤ちゃんやお母さんのお口の中の健康を向上する事を目的としています。産まれたばかりの赤ちゃんのお口の中には虫歯菌は存在せず、お母さんをはじめ家族の方の唾液（食事の時のスプーンやお箸に付着した唾液）を介して感染します。赤ちゃんの虫歯を予防する為にも、お母さんが定期的な検診やクリーニングを受けて正しいケアを知って頂き、お子様のお口を健全に育ててあげる事が大切です。